

鷗友

東京都立白鷗高等学校同窓会 鷗友会

〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-22 都立白鷗高校内 TEL 03-3844-4284 振替 東京 00180-7-3052 会費用
FAX 振替 東京 00100-8-34659 一般用

森の樹々に学ぶ

鷗友会理事長 本間 皓 司

以前、世界中で様々な樹を植え「鎮守の森」(世界語です)造りをしている宮脇昭先生に、地球上では植物だけが生産者で、私たち人間を含めた動物は植物に寄生しながら生きている。ですから環境問題というのは、あらゆるいのちと、地域に根ざした固有の文化を守ること、つまりはそれらを支えている土地本来の森を守ることですと教えられました。森というのは多様な樹々が密生しているからこそ森として育つので、もし人間が利用する樹だけを植えたら、里山の雑木林や庭木と同じで始終手入れをしないとならないそうです。ですから未来の人類に必要な本物の森作りの植林では、その土地に固有の樹々(関東地方だとシイ、タブノキ、カシなど常緑広葉樹)を選び、高木、中木、低木などをまぜこぜにして密植することで、特に人間の手による手入れをしなくても、それぞれの樹々が競い合いお互いに我慢をしながら特性に従って自然淘汰されながら立派な森に育って行くのだそうです。また、戦後の日本の教育のように輪切り教育で、似たものだけを集め頭を切りそろえるような悪平等教育では樹々は育たないし、あいつは嫌いだからといってそばにも寄らないようでは森は繁茂しない。人間社会にしても本当の共生(ともいき)というのは単なる「仲良しクラブ」ではなく、一定の枠の中でお互いにさまざまな喜怒哀楽をぶつけ合い切磋琢磨し競い合い、お互いのいのちを大切にしながら生きて行くことでしよう。

平成二十四年度

鷗友会総会の御案内

本年度の会場は、開業ほやほや東京スカイツリーのオフィシャルホテルでもある、コートヤード・マリOTT銀座東武ホテルです。今年はテレビや映画等でご活躍の俳優 柴 俊夫さん(白18回)に最近の活動のお話を伺います。

記

日時 平成二十四年七月一日(日)

十一時三十分より(受付開始午前十一時)

会場 コートヤード・マリOTT

銀座東武ホテル 3階「龍田」

中央区銀座六―一四―十

電話〇三―三五四六―〇一一

会費 八千五百円

(白60回〜白64回卒業の会員は五千円)

講演 俳優 柴 俊夫(白18回) お楽しみに!

★ご出席の方は郵便局の振替用紙に会員番号、氏名「総会出席」と明記の上、**6月18日(月)必着**で会費をお振込み下さい。
振替口座番号 東京 00100018134659 加入者 鷗友会



白鷗高等学校・附属中学校に着任して



校長
若井 文隆

四月一日付をもって、本校校長に着任しました若井文隆と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。百二十年以上の歴史と伝統を誇り、歴代の校長先生方を初め、多くの教職員の方々が、情熱を注いでこられた白鷗に着任いたしましたことは、私にとって大変光栄なことであるとともに、改めて自分に与えられた責務の大きさを感じております。

まず、私の自己紹介をさせていただきます。江東区で生まれ今も江東区に住んでおります。小・中と地元の学校に通い、その後、高校・大学と進学し、卒業後、数学の教員として、第三商業高等学校に着任いたしました。

小さいときからスポーツが大好きだったので、毎年、職場の同僚と一緒にテニスやスキーなどを楽しみました。また、壁にぶつかったり、悩んだり、くじけそうになったりしたこともありましたが、同僚の先生方に助けられ、教員として独り立ちできるようになったことが昨日のことのように思い出されます。その後、深川高校、九段高校、一橋高校(定)、教頭として大島高校、副校長として足立東高校、校長として足立新田高校の学校を歴任し、今日に至っています。

足立東及び足立新田時代は、同じ旧五地区にある学校として、白鷗高校とも様々な関わりをもたせて頂きましたし、学校を訪れることも何度ありました。明るく元気に活動している生徒の姿など訪れる度に白鷗の素晴らしいさを肌身に感じたものでした。

さて、鷗友会の皆様には、今までにも増して様々な面において、ご支援やご助言を賜ることが多くあると存じます。日本の将来を担う白鷗高校・附属中学校で切磋琢磨している後輩のために、是非お力添えをいただければ幸いです。

私も全身全霊を傾けて、この白鷗高校・附属中学校がさらに発展し、同窓会の皆様にとって今まで以上に誇りのもてる学校としていくために職務を全うしていきたいと思っています。また、中高一貫教育校として、小学生や中学生及びその保護者の方だけでなく広く都民の方々の期待に応える学校として、教職員全員で魅力ある教育活動を邁進していく所存でございます。今後ともよろしくお願いいたします。

「所感」



附属中学校副校長
造 作 聡 美

私は、平成のはじまりとともに教員として働き始めました。本校が六校目の勤務校です。定時制普通科、全日制普通科、全日制総合学科で十八年間に高校生と過ごした後、中等教育学校、附属中学校と、中高一貫教育校の二つのタイプの学校で中学生と過ごす経験もしてまいりました。

本校へ赴任することが決まった際、私は不思議な縁を感じました。なぜなら、私が平成二十一年度に教育委員会の仕事をしていたときの上司が、かつて附属中学校の副校長を務めておられた鳥屋尾史郎先生だったからです。白鷗との縁を感じるとともに、強い緊張を覚えたのも事実です。創立百二十年を超える伝統ある学校であり、また、都立で最初の中高一貫教育校として多方面から注目されている学校であることを考えたとき、私のような浅学非才の者に副校長が務まるのであろうか、という思いが浮かんできました。

私がこれまで教員を続けてこられた最も大きな理由は、勤務した全ての学校で「人」に恵まれたことです。日々新たなことを学ばせてくれる、卒業生を含めた生徒たちが一番の功労者であることは間違いありません。しかし、生徒た

ちと同じくらしい力で私を支えてくれるのは、学校に関わる多くの方々です。校長先生をはじめとする教育職員、予算や施設等の面で学校を支える行政職員、保護者、地域住民、どこか一部でも欠けたら、今日の私はいないと思います。一緒に生徒の家庭訪問をしてくれた方、深夜まで続く会議に黙って差し入れをしてくれた方、何気ない会話で気持ちを和ませてくれた方、手紙をくださった方……。悩んだり苦しんだりする問題はその時々で異なっていますが、いつも私を前向きにさせてくれたのは、周囲の人の心であり、言葉であり、行動でした。

転勤をすると、いろいろな方から「新しい学校はどんな学校ですか。」と尋ねられます。これまでの私は、やや遠慮気味に新しい学校の印象を述べていました。しかし、今年の私は、こう答えます。「白鷗は、教職員、保護者、地域住民が、それぞれの立場から、次代を担う生徒たちを育てるという一つの目標に向かって力を尽くしている学校です。」と。着任してまだ日の浅い私でも、自信をもつてこう言えます。なぜなら、私は白鷗でも「人」に恵まれると確信しているからです。その確信の根拠は、生徒たちの姿です。学校の主役である生徒自身が、高い目的意識をもち、何事にもいきいきと懸命に取り組む姿を目の当たりにした私は、それを支えている「人」の力を実感しているからです。私自身も、生徒のために、そして生徒を支える人のために、微力ではありますが、力を尽くしていきたいと考えています。

◇進路部より◇

進路指導主任 瀧 島 昭 克

昨年、中高一貫1期生が卒業したと思っていたら、あつという間に今年の3月に2期生も卒業となりました。1期生の進学実績は、『白鷗シヨック』と言われるほどインパクトのあるものでした。しかし、『先輩たちと同じような入試結果は無理!』と言っていた2期生も表の通

り、国立難関大学である東京大学2名、東京工業大学3名、一橋大学3名の計8名の合格者数をはじめ、早稲田大学39名、慶應義塾大学11名、上智大学8名、東京理科大学28名合格という先輩たちと同様の大きな合格結果を残すことができました。

生徒本人の頑張りや保護者の方のサポート、そして担任の先生方によるきめ細かい指導の下、国公立大学44名(大学校1名を含む)(昨年度は36名)、私立大学145名(医学部合格1名を含む)(同132名)、短期大学3名(同3名となり、しっかりと自分の進む道を見つけて進学していきましました。次回再挑戦となった浪人生も、昨年度より19名少ない32名です。1年間の頑張りの報告を心待ちにしたいと思っています。

1期生・2期生の先輩方を見て、後輩たちも卒業後を意識して学校生活を送っています。先輩に追いつき追い越せの気持ちを持ち、自己実現に向けて頑張つてほしいと思います。

	1期生(浪人生)	2期生(浪人生)
東京大学	5	2 (1)
京都大学		(1)
東京工業大学	3	3
一橋大学	2	3
早稲田大学	37 (2)	39 (5)
慶應義塾大学	15	11 (3)
上智大学	14 (1)	8 (2)
東京理科大学	36	28 (6)
学習院大学	3 (6)	14
明治大学	36 (2)	30 (10)
青山学院大学	14 (1)	14
立教大学	27 (3)	22 (2)
中央大学	16	16 (3)
法政大学	19 (3)	30 (4)

【中高一貫1期生及び2期生の皆さんへ】

卒業時にお知らせした通り、夏休みに主として中学生に対する講習・補習のお手伝いボランティアを募りたいと思います。詳しくは白鷗高校のホームページ「お知らせ」に6月中旬以降アップする予定であります。

◇客員消息◇ 平成24年度

退職

星野喜代美（校長）
松浦 明博（附属中学副校長）
荒井 繁（化学）
前田 幸正（物理）
伊原 久男（日本史）
与那覇政直（数学）
伊藤 麻子（英語）

◇白鷗高校◇

転任

有馬 聡（国語）
金敷 孝子（国語）
鈴木 将志（地学）
高橋 直人（生物）

着任

若井 文隆（校長）
柿本 美知（国語）
百々 大祐（国語）
吉田 浩樹（化学）
亀山 隆行（生物）
吉織 晋二（生物）
乙部 淳（物理）
戌亥 学（英語）

◇附属中学校◇

転任

田村 嘉信（数学）
日比野智子（数学）
田中 志乃（化学）
鈴木真由美（生物）
伊藤 和子（英語）
山崎 実佳（養護）

着任

造作 聡美（副校長）
加藤 隆弘（政経）
馬場 崇（数学）
津田 昭一（数学）
佐藤 圭太（数学）
井川 康子（化学）
内記 昭彦（地学）
七条さゆり（英語）
相原 宏美（英語）
山田 紅子（養護）

平成24年度 鷗友会評議員会

平成24年4月21日（土）午後1時30分

於 白鷗高校2階会議室

日差しを厚い雲が遮り少し肌寒い中、新評議員5名を含む66名の方がお集まり下さり定刻通り開会しました。

司会の松浦副理事長による開会の辞に続き、ご欠席された本間理事長の代行として土屋副理事長が挨拶されました。週刊東洋経済の「本当に強い中高一貫校」という特集において、白鷗高校が公立校のトップバッターとして掲載され、その進学実績が「白鷗サプライズ」と呼ばれ好評を博していることを紹介いただきました。

同日開催された保護者会でお忙しい中、今年新たに着任された若井文隆校長と附属中の造作聡美副校長がご出席くださり、新体制で臨む新たな一年に向けて「白鷗の伝統に恥じないよう生徒を指導していきたい」と意気込みをお話されました。

規約により理事長代行の土屋副理事長が議長となり、次の項目を審議しました。

一、平成23年度 事業報告 土屋副理事長
・鷗友会創立120周年について

・記念講演会 *記念総会 *「鷗友」記念誌

*奨学金基金寄付 *旧校舎 360度写真 額装

*制服画修復と額装

*鷗友会奨学金10名に交付

*学業奨励図書券を

新入会員226名、皆勤者35名に贈呈

・白鷗祭参加

二、平成23年度 決算報告 杉山理事

監査報告 間野監事

三、平成24年度 事業計画 土屋副理事長

・総会（7月1日）

・コートヤード・マリオート銀座東武ホテル

・白鷗祭参加（9月15、16日）

・規約改定

*第8条 理事は庶務、会計、編集、企画

などの各部の会務を分担する。

1、企画部は会の事業計画を扱い、必要に応じて第9条に定める委員会の設置を要請する。

*第17条 本会の運営のために……

1、職員は役員を兼ねることができない。但し、理事会が必要と認めたときは、その限りではない。

（この改定により、白31回の石井さかえさんが理事と事務局員を兼務することになります）

・鷗友会事務局の壁紙張替

四、平成24年度 予算案 杉山理事

以上の議案は満場一致で承認されました。なお、「鷗友」155号に同封させていただいた会費および奨学金基金寄付の振り込み用紙について、事前の説明が不十分であったため皆様の混乱を招いてしまったことを、林きぬ子評議員よりご指摘いただきました。別刷りに再度ご案内を掲載しておりますので、そちらをご参照ください。

五、その他

・△支部紹介▽

さいたま支部 中村和好さん、川崎支部 坂本

久悦さん、湘南支部 川島喜美子さん、東葛支

部 斎藤美登里さんから、各支部の活発な活動

の様子が報告されました。

・出席された新評議員の渡邊莊太さん、前田

利徳さん、葛生啓介さん、五十嵐幸輝さん、

村田隆太郎さんの紹介とご挨拶がありました。

高校を卒業し新たな一歩を踏み出した意気込み

を、それぞれの言葉で力強くお話しされました。

・意見交換の場では、白46回の関谷真理子さ

んより卒業生による吹奏楽団ホワイタル・ウイ

ンド・アンサンブルの演奏会についてご案内が

ありました。

最後に土屋副理事長から、理事の任期満了に伴う世代交代を潤滑に進めるために、ぜひ新しい役員の推薦をいただきたいとの願いがあり、松浦副理事長の閉会の辞により閉会となりました。

白58回 野崎 絵 美

新評議員 白64回

1 組	太佳也 士夢南 大徳介 輝人 隆太郎
2 組	庄佑稜 敦拓 杏翔 利啓 幸雅 隆太郎
3 組	邊中田川 野藤田 生嵐 澤田
4 組	渡田飯市 梁天 衛前 葛五 南村
5 組	
6 組	

【寄稿】

私と戦争の時代

白4回 岡 本 育 子

日本は、ドイツ、イタリアの三国で、三国同盟を結び、軍国主義の国となります。その頃、昭和八年二月十六日の朝私は、慶応病院で産ぶ声をあげました。父は、向島吾嬬町にあった映画撮影所の経営者高松豊次郎の三男の操。母は浅草日本堤の千束町で貸家業、映画館での中売り（菓子、ラムネ等を売る商売）等をしていた岡本家の一人娘、よ志。二人は結婚。昭和八年二月十六日、慶応病院で長女が生まれ、育子と名づけます。次女幸子、三女貴三子、弟の章、その下に弘が生まれ、五人姉弟です。父（芸名吉林操）は、中国の華北電影という映画会社に招かれて、母のよ志と北京へ出発し撮影所長となるが、中国での子育てを心配し、気丈な祖母ときが、二人の住み込みのお手伝いさんと、浅草の家で、孫五人を育てました。父方の祖父豊治郎は、働いていた工場の機械にはさまれ、左手を肩下から切り取られ、労働者の組合はなく、一銭の見舞金もなく、会社から放り出されて労働者の弱い立場を痛感して、労働運動を始めました。

戦争は激しくなり、私達は学童疎開で鎌先温泉へ、父は子供達を心配する親の為に疎開先での子供達の生活を撮り、浅草へ戻り、富士小学校で上映会を開きました。その後、三月十日の大空襲で、婆やを連れて逃げ、行方不明となっていました。

支部だより

関西支部

「鷗友会関西支部 秋の集い」は平成23年11月10日、グランヴィア大阪「楓の間」で開かれました。出席者は例年より若干多く18名。残念ながら岡本会長はご欠席でしたが、お久しぶりの阪本由紀子さん(56回)、増田初枝さん(白3回)、平賀正治さん(白6回)、又、けがで入院中にもかかわらず病院を抜け出し、松葉杖姿で駆けつけてくださった藤澤廣文さん(白8回)等のご出席はうれしいことでした。

開会に先立ち、4月に亡くなられた猪股路子さん(54回)に黙祷を捧げた後、平賀さんの乾杯で会は始まり、和気あいあいとなごやかな雰囲気の中、今回は皆様に自己紹介をしていただき、会は一層盛り上がりしました。又、鷗友会創立120周年記念総会に出席された中森リリ子さん(60回)から貴重なご報告をしていただいたのも、母校をより身近に感じられ良かったと思っております。

時間の経つのも忘れるほどの楽しいひとときでしたが、田代和子さん(56回)のご挨拶をもつて来年の秋の再会を約し散会しました。

次回も同じ会場で11月8日に開くことになりましたので、より多くの会員皆さまのご出席を願っております。



白14回 檉根 みづえ

《庶務日誌》

平成23年
12月2日 冷蔵庫購入。
9日 修復制服絵画ケース額装され納品。
20日 鷗友155号(鷗友会創立120周年記念号)発行。
27日 A4透明封筒・住所変更フォーム添付・コンビニ振込が可能に。
平成24年～
1月6日 冬休み
1月13日 白19回 永野順子(文化学園大学教授)よりカドリールを含む学校ダンスの研究についての論文を受領。会員の学校見学者2名。
21日 理事会。マレーシアホンチャ高校とのリーダー研修支援の要請について検討。今回は見送る。
1月27日 高校推薦入試のため閉室。
2月3日 中学一般枠検査のため閉室。
7日 新会員配布用冊子の理事長挨拶を新しくする。
北区飛鳥山博物館中野氏から府一女時代の音楽教師ナカダソノの在

籍期間について問い合わせ。
平成24年度総会会場を銀座東武ホテルに決定。
理事会。事務室の壁をきれいにする件。
2月18日 白29回石川由美子さん、附属中学で雑俳授業を行う。
3月5日 白64回卒業アルバム1冊購入。
6日 卒業式予行で野崎理事が鷗友会について説明。
9日 白鷗高校卒業式。土屋副理事長出席。
10日 鷗友会に226名が入会。
17日 皆勤者35名。新評議員12名。
27日 理事会。附属中学卒業式。土屋副理事長出席。
30日 評議員会開催通知発送。
4月 卒業生の歌人葛原妙子の調査で中西氏来室。
4月 来校者入校新ルート開始。教職員用玄関は使わず、校庭側玄関を利用する。
4月3日 家庭科難波先生から 校章入り開襟シャツ(男子用)2枚受領。
星野校長が退職され、新校長として

4月6日 若井文隆校長着任。
日本児童文芸家協会より 卒業生の柴崎俊子氏(白7回)が第51回児童文化功労賞を受賞したとの連絡があった。祝受賞。
9日 白鷗高校・附属中学入学式。本間理事長、松浦副理事長出席
13日 会計監査
21日 理事会・評議員会
24日 白13回中山さん他2名 学校見学
文科省科学研究費プロジェクトの東大大学院生 歌川光一氏 第一高女の校友会雑誌他調査で来室
26、27日 内装工事

◆会への寄付 (敬称略)

白5回 川 松 久 子 一〇、〇〇〇円
白5回 同 期 会 一五、四〇七円
白5回 一年八組クラス会 一五、五五八円

◆寄贈図書 (敬称略)

白7回 野 村 路 子 「フリードル先生とテレジンの子どもたち」
白4回 高 橋 静 子 「吹上の自然」「新潮 世界美術辞典」他6冊

◇湘南支部 平成23・24年代表(敬称略)

白2回 川 島 喜美子

◎学校からのお知らせ◎

来校者入校ルート変更

防犯上のリスク軽減及び業務軽減の観点から入校ルートが変更されました。同窓会にも周知とのことでお知らせいたします。

学校、鷗友会にお越しの際は、北側出入口インターホンを使用せず、南側昇降口(校庭側)にまわって、経営企画室窓口で直接受付をお願いいたします。

白鷗祭

9月15日(土)・9月16日(日)